S-10-1 SLEに対する吸着療法の有用性

キナシ大林病院¹⁾、香川医科大学第一内科²⁾

猪尾昌之¹⁾、徳田道昭²⁾、蒲生直幸¹⁾、鬼無 信¹⁾、倉田典之¹⁾

【はじめに】我々は、ループス腎炎を対象にステロイド療法に二重濾過法の併用を行い、ステロイド単独療法との比較では有効であったが、長期予後に関してはステロイドの影響が極めて大であり、アフエーシス単独の効果の評価は、ステロイド大量療法などの強力な免疫抑制療法との併用療法において、その効果はマスクされ困難であった。そこで、選択的に目的物質除去を可能とする吸着療法の有用性に着目し検討を行った。

【目的】病因物質(リン脂質、抗DNA抗体、酸化LDL)を吸着除去することによるSLEの臨床経過に及ぼす影響を評価する。

【対象及び方法】難治性ネフローゼSLE症例に対して、LDL吸着療法を行い、尿蛋白への影響と免疫学的な影響を検討した。

【結果】病因物質と思われるリン脂質、抗DNA抗体を即座に除去することにより免疫学的改善効果を認め、難治性ネフローゼの病態に悪影響を与えていると思われる酸化LDLを低下させることにより、従来の治療に抵抗していた状態から蛋白尿の有意な減少効果を認めた。

【考察】病因物質を積極的に除去をする吸着療法は従来の二重濾過療法の非特異的な治療と比較し、病態的に特異性が高く、治療による免疫抑制作用が出現するまでに、異常な免疫環境を急速に是正することにおいて有用であると思われた。

S-10-2 ループス腎炎に対する免疫吸着療法の臨床効果に関する検討

順天堂大学 膠原病内科

杉本郁, 山路健, 関谷文男, 今高之, 田伏洋子, 鳥越義博, 山崎泰明, 建部一夫, 金英俊, 木村桂, 梁広石, 森谷泰和, 金井美紀, 津田裕士, 橋本博史

【目的】ループス腎炎の治療に関しては抗DNA抗体や免疫複合体を除去する免疫吸着療法の有用性が報告されている。今回我々は6例のループス腎炎患者に対して免疫吸着療法を施行しその効果につき検討した。

【方法】フェニルアラニンをリガンドとして固定化した吸着剤(イムソーバPH-350)を用い、1回2Lの血漿処理を週2回で計4回実施、開始前から終了後4週までの尿所見や抗DNA抗体価の変化を評価した。ステロイドは腎生検実施後にプレドニン1mg/体重Kg程度に増量し免疫抑制剤や抗血小板薬の併用は行わなかった。

【結果】免疫吸着療法を施行した全例で、尿沈渣中の細胞性円柱の消失を認め、尿蛋白も 2.59 ± 1.50 g/日から 1.54 ± 1.33 g/日に減少し、抗DNA抗体価は施行前の 62.9 ± 69.5 IU/Lから 5.83 ± 1.33 IU/Lに減少し、ループス腎炎に対する有効性が示唆された。